

情報社会—今そこにある課題—

編集にあたって

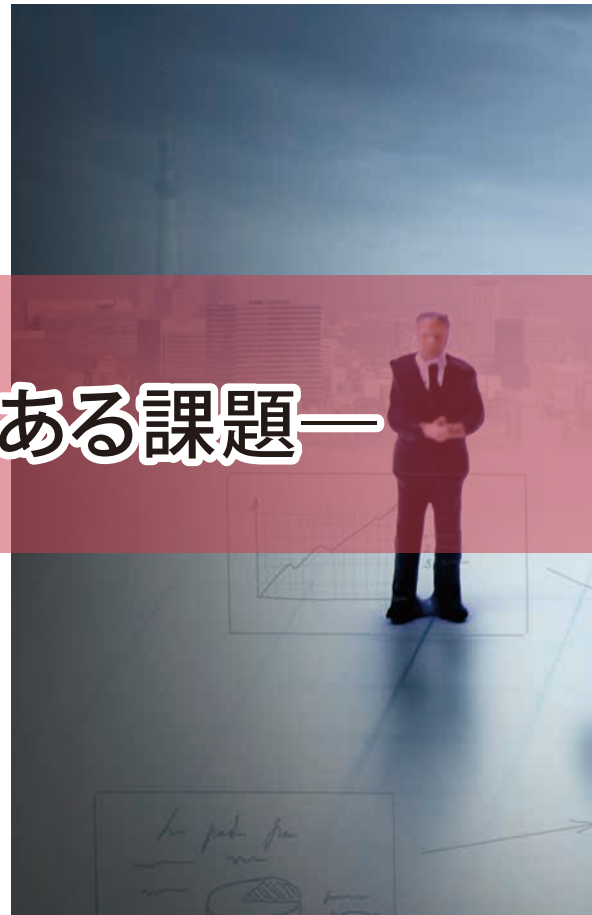
須川賢洋 | 新潟大学

情報社会の最新の諸問題を集めてみた。

できる限り最新の問題を伝えるべきであるとの考えから「今どんな課題があるのか」をインデックスのように並べてある。東京オリンピック・パラリンピックに向けてのIT政策などはその典型例であろう。また、「シーサート (CSIRT)」や「ダークウェブ」などといった言葉は初めて聞く人も多いのではないだろうか。執筆者の方々には論考というよりも、エッセイとして思うところを書いてもらった。問題意識を多くの人々と共有することがまず何よりも重要であると考えたからである。しかしながら、執筆している人たちは皆、その問題の解決策を研究または実践している人たちである。それ故に、文中に述べられている危機意識や提言内容も現場から発せら

れた重みのある声だと思っていただきたい。

技術と制度は、決して相反するものではなく、車輪の両輪にあたるものである。どちらが欠けても社会というシステムは動かない。つまり、双方の得意なところを出し合わないと前進はできないし、互いの方向が違えば空回りし最悪の場合は分解してしまう。だからこそ、お互いに相手のやっていることを知りつつ研究・開発を行わないとならない。情報科学はその意味ではちょうど学問のHUB (ハブ) に位置するといえよう。今回の小特集でも、法学や政策科学を専門にする人だけでなく、技術開発に携わっている人からも寄稿してもらっている。問題解決のために進むべき道の方向性を間違わないためには非常に重要なことで、お互いに相手の声を聞きな





がら研究しないと、実現不可能な製作や政策を行いかねないからである。

そしてまた、新しい技術を開発するのに多くの時間を要するのと同様に、我々の生活する社会にある問題があったとして、それを規制するための法律を作り実際に行政機関の業務とするまでも非常に多くの時間とエネルギーを要する。だからこそ、少しでも早く「今そこにある課題」を知ってもらうことができれば……というのが編集者の思惑である。

今回、取り扱ったテーマは「東京オリンピック・パラリンピック」「シーサート (CSIRT)」「システム監査」「標準化/規格化」「仮想通貨」「情報教育」「セキュリティ人材育成」「ダークウェブ」「ソーシャルメディア」「テレビ放送」「自動運転車」「医療情報

「テレワーク」「オープンデータ」「マイナンバーカード」「司法の ICT 化」「知的財産戦略」「サイバー犯罪」「匿名加工情報」である。先に挙げた法律や政策科学、次世代技術だけでなく経営戦略、メディア、医療情報なども含めた広範囲の社会問題を取り扱ってみた。こうやって編集してみると、その多くの執筆者の文中において「セキュリティ」に関することが取り上げられていることもまた興味深い。やはり今の社会の最も重要な課題の1つであるようである。

ちょうど4月号ということで、もし新学期・新年度にあたっての新しい研究テーマを模索されている方がいたら、この特集号をヒントにしてみたいかがであろう。

(2018年2月8日)